

～自律的に学習する子どもを育てる ORT シリーズ～
英語力そして自己決定する力を育む ORT での多読多聴

静岡聖光学院中学校・高等学校
西山哲郎（校長補佐兼グローバル教育担当）

《ORT との出会い》

英語教師として教壇に立ち始め、約 20 年が経過します。中学入学と同時に英語の世界に魅了され、英語は世界と私を繋ぐ窓であり、英語は常にワクワクする存在でした。しかし、教員になってからしばらくは「教え込まなければ」という自己暗示に陥り、学生時代に持っていたはずの英語がいつも与えてくれた瑞々しい気持ちを教え子たちと共有することができていませんでした。

特に入試問題以外の本格的な英語の文章や洋書を高校卒業までに読む経験、楽しさ、そして奥深さを経験させずに卒業させてしまうことに罪悪感や疑問を感じていました。「どうして読めないんだろう？」「どうして英語の文章を読むのがこんなに遅いんだろう？」と英語での読書が生徒たちの間に浸透・定着しないことを自らに問い始めたのが約 10 年前。居ても立っても居られなくなった私は多読関係の学会に参加しました。

そこで紹介されたのがまさに ORT シリーズでした。絵だけしか描かれていないレベル 1 から漆を塗るが如く、「ゆっくり丁寧にそして内容を楽しみながら徐々にレベル 2、レベル 3、レベル 4 へと進んでいく、そんな経験をまずあなたがしなさい！」とアドバイスを受けました。偶然、自宅近くの公立図書館が多読書籍を約 6,000 冊ほど取り揃えており、ORT シリーズもそこにはありました。それから毎週そこへ足を運び、多読ライフがスタート。ORT の楽しさ、面白さに魅了され、いつの間にか愛らしい ORT のキャラクターの名前や性格も覚えていました。

正直に告白すると、英語を教える立場でありながら、どこか洋書を読むことに苦しさを感じていました。しかし、多読学会でのある先生のアドバイス通り、易しい内容の ORT を楽しみながら、ゆったりとした気持ちで読むうちにあることができるようになり、洋書を読むことが楽にできるようになっていたのです。そのスキルとは「直読直解」。文法訳読の授業で育った私は実は授業外で洋書を読む習慣を持ちはしていたものの、「返り読み」する癖があり、スムーズに「直読読解」できていなかったのです。まさに ORT で始まったリハビリ生活によって、英語を読む楽しさを教える私自身が得ることができました。

当時、中学 2 年生を担当していましたが、即 ORT を使った授業内多読を始めました。週 4 時間のうち金曜日をまるまる 50 分間多読授業にしました。その週に私が読んだものをそのまま彼らにも読んでもらいました。読んだ内容を共有し、面白さを伝えることで、彼らも ORT での多読に夢中になってくれました。よく「多読の授業中教員は何をしてるんですか？」と尋ねられることがありますが、多読の授業中は実は非常にこちらは忙しいのです。本のミスマッチをそれとなく教えてあげたり、一緒に本を読んだり、内容の質問に答えたり、多読を通して生徒たちとのコミュニケーションをより多く持つことができ、関係性も良くなります。

中2で始めたORTによる多読によって教え子たちは様々な力を身につけました。前述した直読直解力に始まり、イギリス文化に対する教養、文法力や表現力、そして英語での読書力と読書習慣。中3、高1そして高2と年月を重ねていくうちに学校現場で扱われる「長文読解力」が伸びたことは言うまでもなく、教え子たちは英語力全般を飛躍的に伸ばすことになりました。学問の核は読書であり、その素地があってこそ、人は知的好奇心や向上心を備えることができるのです。

みなさんは「内発的動機づけ」という言葉をどこかで聞いたことはないでしょうか。人間にはもともと知的好奇心・向上心があり、それらが行動や学びの強い原動力になっているという考え方です。例えば幼児は好奇心の赴くままに行動し、いろいろなことを経験から体得していきます。時には口に入れて、時には壊してもものの性質を学びます。本能的に学ぼうとするという人間の性質は、こうした幼児の行動からも明らかなように見えます。読みたい本を自らの意思で選択する、当たり前のようなことも日本の英語教育の中ではまだまだ実践されていません。

ORTを通じた多読は洋書という広い世界を探究していくための土台づくりです。人は自己決定ができることで内発的動機づけされます。知的好奇心・向上心は、個人のみならずその周囲にも好影響をもたらします。そのため、それらを発揮させる「内発的動機づけ」は、子どもの教育に止まらず、組織づくりなどの話の中でも、頻繁に出てくる言葉となりました。

授業内多読が定着し、生徒たちの間に英語による読書習慣が定着すると、自ら好きな英文や洋書を選ぶという自己決定の機会が増えることになります。すると好きな本を読んだ人は内容を他人に話したいという衝動に駆られます。このプロセスは行動に対してフィードバック（振り返り）をすることになり、内発的動機づけをさらに強化させることにも繋がります。

さらに授業内多読は英語4技能全体の涵養も後押ししてくれます。ただ読むだけでなく、生徒間での読み聞かせや読んだ内容を英語でシェアするブックトークというアウトプット活動も行い、また好きな本を薦めるポップを作成することなどもできます。

約10年前、英語の読書を苦痛に感じていた生徒たちを救いたい一心で足を運んだ場所でORTと出会い、英語に触れる楽しさを再確認することができました。ORTは英語力を伸ばすことだけでなく、人間が本来備えている知的好奇心や向上心を満たしてくれるオーセンティックな英語教材であり、内発的動機づけを後押ししてくれる人生の宝物にもなり得る存在です。